

開催地名	神奈川県開成町
開催日時	令和5年12月2日（土） 13:30 ～ 15:30
開催場所	開成町役場1階町民プラザ（ホール）
語り部	柳迫 長三 （広島県広島市）
参加者	防災リーダー、地域住民、関係機関 48名
開催経緯	町内の自主防災組織の災害に対する危機意識と自主防災組織の重要性について、町民の方に知っていただき、災害時の活動に繋げる。また、関東大震災から100年の節目の年に改めて町民の防災意識の高揚を図るため。
内容	（1）広島の水害 広島は20年間で大きな水害を3度経験している。 ・平成11年6月29日 豪雨災害 ・平成26年8月20日 広島豪雨災害 8月20日の災害では、8月19日の夜から20日の明け方にかけて猛烈な降雨を観測した。尾根の先端から崩れ落ち、家や道路などを巻き込み、ほとんどの人が寝ている中、家の中で押しつぶされた。 ・平成30年7月西日本豪雨災害 西日本を中心に広域的かつ同時多発的に水害、土砂災害が発生。 洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域において、避難行動を促す情報が発令されていたにもかかわらず、人的被害が多く発生した。 （2）西日本豪雨災害で感じたこと 自助の項目として ・災害時の対応について家族と話していない。 ・過去の災害、地域のことを知らない。 ・若者と地域の方との連携の取り方がわからなかった。 共助の項目として ・全世代が活動する自主防災組織にする。 ・避難所開所は、役所に頼らず自分たちで運営する。 ・避難所での関連死をなくすための環境づくり。 ・教育現場との連携が必要。

	(3) 地域づくりは防災から ・自分たちの町を自分たちで守るには近助・共助が大切になってくる。 ・隣近所2～3軒の人と顔見知りになり、お互いのことを知り助け合う。 ・「無事です」とプリントされたタオルを家庭に配り、安否確認の際は家の前に掲げ、わかりやすくした。 ・自宅周辺の事象（前兆・異変）から危険を感じとる力を養うため、歩いて地域を周り、50～200世帯の防災マップを作成した。 ・子供の防災教育を進めるため、小学校の総合学習の時間に「防災」を取り入れている。落合学区では総合学習の40時間を防災にあてている。自分たちで疑問点を見つけ調べ、それを発表する。防災について勉強したことにより家族間の話し合いが増えたという。 ・スマートフォン等を活用し、体調管理をしたり、安否確認システムを活用したり、個々が「自分の命は自分で守る」という事ができる地域になることが重要である。
開催地より	受講することにより、災害時には行政の支援を頼らず自分自身、自主防災組織による自助と共助の重要性を再確認した。 また、小学生の防災への取り組みについて、未来につながる取り組みであり、子供のころから防災に取り組むことにより大人も動き、結果的に地域の防災力が強化されることに驚いた。